

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク講演会

— 基調講演 —

「定期貨客船を活用した環日本海諸国との交流」



鳥取県商工労働部長 山根 淳史氏

みなさんこんにちは。ご紹介いただきました鳥取県の商工労働部長を拝命いたしております山根と申します。

本日は「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」の講演会にお招きいただきまして、またDBS等のお話しする機会を与えていただきまして、御礼を申し上げたいと思います。大変光栄に思う次第でございます。

実は私は商工労働部長を拝命して10ヶ月にならないところでございまして、就任したときにはすでに環日本海航路は運行いたしておりました。それまでは管理職の人事交流第1号として島根県庁に1年10ヶ月お世話になっておりました。そういうことで、当地松江は非常に愛着深いものがありまして、この場でお話しすることを非常にうれしく思います。

本日はテーマを「定期貨客船を活用した環日本海諸国との交流」ということで30分程度お話しさせていただきたいと思います。

これが、昨年6月に貨客船として就航したDBSクルーズでございます。(資料 p. 1)

まず境港の状況につきまして簡単にご説明申し上げたいと思います。これは全体の貨物量ですとか、コンテナの取扱量の推移を示したものです。2009年はリーマンショック後の世界的な不況ということで大変苦戦し、貨物取扱量は減っておりますが、その後は順調に回復してきております。2008年の統計では、貨物総量は423万トンということで、全国で53位という位置でございます。ただ、この境港の特徴といたしまして、近隣に製紙会社、木材製造会社が立地しております、原木・紙パルプの取扱量は日本一でございます。そういう特性をもった港です。コンテナにつきましては、ご覧のとおりでして、コンテナの取扱量でいいますと、全国で37位程度というところでございます。韓国へいったんトランシップしまして、中国へというものが多という状況です。(資料 p. 2)

これは今現在の境港と北東アジアとの航路を示していますが、定期コンテナ航路で、中国航路が2航路、韓国航路が3航路でございます。中国航路は大連、天津、青島といった航路で、韓国航路は釜山を結んで中国へ向う航路を含めて3航路でございます。DBS航路は黄色く示していますが、貨客船ということで昨年6月から就航したということでございます。(資料 p. 3)

次の図面をご覧ください。ちょうど日本海が琵琶湖のような格好になっていて、内海という感じが見てとれるかと思えます。そういうことで、この鳥取県は西日本における北東アジアのゲートウェイを目指そうということで、以前から境港を中心にがんばってきたところでございます。DBS航路以外にも、米子空港、今鬼太郎空港と言っていますが、そこからソウル仁川空港に週3便出ています。そういうアジアとの交通を積極的に進めているところでございます。ロシアのウラジオストク自体は、人口は50～60万人ですが、再来年のAPECに向けて建設ラッシュでして、私も7月に行きましたが、会場を結ぶ壮大な橋が建設中で、すごい橋だなという感慨を覚えたところでございます。こうしたウラジオストク向けの建設資材等の需要が高まっています。韓国東海は、ソウルとの距離が高速で3時間の位置にありまして、陸送の時間が短いという状況です。ということで、鳥取県では北東アジアゲートウェイ構想で、物流・人の流れを活発にして、活性化を図ろうという取り組みを全庁あげて、あるいは市町村をあげて取り組んでいるという状況です。(資料 p. 4・5)

これが、DBSクルーズフェリーの仕様でして、旅客定員458名、貨物20フィートコンテナに換算して130TEU積載できるという能力をもった船でございます。(資料 p. 6)

このDBS航路が昨年6月に就航したときは、東海境港間は週2便ありました。金曜日と日曜日の2回入港していました。ウラジオストクに行くスケジュールの関係で、金曜日9時に入りまして、夕方7時に東海に向けて出航するというスケジュールで、日曜日と同じように9時入港、7時出航で、日曜便がウラジオストクまで結ばれていたということでしたが、貨物が初年度ということで、非常に苦戦しまして、DBS社が1年間の実績を踏

まえて、経営の見直しをされました。その結果、9月26日から東海境港間を週2便から1便へとスケジュールを変更されました。従いまして、金曜日の朝、境港に入港しまして、土曜日の夕方出港するということになりました。当然便数が減るわけですので、貨物にとっていいことはないわけですが、一方で、人のほうはそれまで韓国から観光客でいらっしやっても1泊できなかつたわけですので、今までは朝入港後大山登山して、近くの皆生温泉で汗を流して夕方帰るといふ、いわゆる弾丸ツアーと呼ばれるツアー形態が主流でした。今後は1泊していただくようになりますので、1泊2日の観光ツアーに変わっていきますので、結果経済効果でいいますと、宿泊料金が発生しますので、便数は減っても観光効果でいえば、この宿泊による効果は大きいと分析しています。(資料 p.7)

貨物のほうは後ほど詳しく説明したいと思いますが、これまで韓国東海との単純往復分は非常に実績が乏しく、今回便数が減ったことによる影響はほとんどないと考えております。それから旅客料金のほうですが、ロイヤルスイートが35,000円で一番安い料金が7,500円というのが特徴で、東海境港間を13時間、東海ウラジオストク間を18時間で、定時制を保ち確実に目的地に行ける移動タイムに優れています。優位性ということで、まずはロシア極東と西日本を結ぶ唯一の定期貨客船だということが売りでございます。今後発展が望める中国東北三省への新たな物流ルートもこれから視野に入ってくるだろうと思っております。(資料 p.8)

DBSクルーズの貨物について説明しますと、昨年7月からの統計でございますが、大変苦戦しておりまして、トン換算にして100トンにも満たないところからスタートしておりますが、着実に右肩上がりに増えてきております。平成21年7月～12月の6ヶ月間と平成22年1月～8月の8ヶ月間を比較しますと、貨物量にして約3倍に増えております。なんとかこの調子で貨物を増やしていきたいなと思っておりますのでございます。

(資料 p.9)

この貨物の特性を輸入・輸出・合計で表しています。輸入は韓国東海が多いのですが、輸出は圧倒的にウラジオストクが多いわけです。これは、中古車、農機具、農産物といった需要がございます。合計で見ますと、ウラジオストク73%、東海27%ということになります。先程の松江市長の話にもありましたが、今年の8月



と9月に大根島の牡丹をロシアへ輸出するというので、DBSクルーズを利用してウラジオストクに送りました。現地のマスコミも関心を持って大々的に取り上げていました。こうした花の需要は非常にあるということで、高い評価を得られたとお聞きしております。

(資料 p. 10)

貨客船就航でいろいろな効果がありますが、そのひとつに交流ということがあげられると思います。まず、「ロシアの柱」というロシアの中小企業連盟が9月1日に境港市に境港支部を開設しました。いろいろなビジネスマッチングや情報提供を行っていただく公的な部分の組織です。「ロシアの柱」の誘致をすすめていただいたのが、「ロシアの柱」沿海地方の副部長でいらっしゃいます、ザハロフさんという方なのですが、非常に興味をもっていただきこの取り組みを成功させていただいたところでございます。このザハロフさん自身もビジネスをしていらっしゃいます、このビジネスの部分でも、山陰地方のものをロシア向けに輸出したいと意気込んでいらっしゃいます。先般農機具だったとお聞きしていますが、実験輸送でこの貨客船を使ってウラジオストクに輸出されたということです。今後中古自動車、農産物、農産加工品などを順次輸出していきたいと意気込んでいらっしゃると思っております。こうした動きを行政も支援していきたいと思っております。

7月に韓国からはじめて農産物のパプリカが輸入されまして、非常に鮮度がよくて、市場の評価が高く、徐々に増えていくだろうと関係者の方からお聞きして非常にうれしく思っています。また7月にはウラジオストク向けに鳥取県内名産のすいか、メロンを実験輸送・販売しました。すいか500玉だったと思いますが、1個6,000円だったそうですが、おかげさまで完売しました。日本の農産物は「安全・安心・おいしい」という意識がロシアのみなさん方にあると担当者から聞いたところですが、今後は値段が高いということがネックになろうかなと思っております。9月には鳥取県特産の21世紀梨も輸出しました。広島県のJAともタイアップしてブドウも実験輸送したところです。(資料 p. 11-12)

続きまして、旅客のほうはどうかということですが、就航当時は気合を入れて旅行商品をつくったということもあり、7~8月はどんと伸びたわけですが、それ以降落ちてきました。このところ6月から上向きに推移しています。その内訳ですが、韓国の方が約8割でして、さきほどお話ししました、当初は弾丸ツアーでしたが、9月からは1泊2日の商品が出ましたので、最近DBSクルーズでいらっしゃった方の観光動態を見ますと、一番多いのが松江の観光周遊でして、あと大山登山、少し足を伸ばして鳥取砂丘へと広範囲な観光ツアーの様相になってきています。最近の特徴といたしまして、ロシア人の方が増えてきています。今11位ですが、多分年を追うごとに増えてくるものと思っております。ロシア人のツアー商品ですが、「フリガト・アエロ・ジャパン」という会社がすでに境港市内に事務所を置いて、ツアー商品を企画・開発なさっています。今は商品を企画してもDBSクルーズの客席がとれないということ聞いておりまして、少しうれしい悲鳴といったところです。日本人が少ないという状況があります。これは、運航スケジュールの都合で日本人が行っても、どうしても行きはよいよい、帰りはないという状況でして、行きはDBSクルーズで東海へ行ってもらって、帰りは仁川・米子間の飛行機で帰ってもらうプランでないと具体性が難しいということです。まだまだPR不足かなという思いもあります。船と飛

行機がタイアップした旅行商品づくりも担当部署で一生懸命に考えております。利用の形態がバラエティーに富んで増えております。(資料 p. 13)

最近韓国ドラマ「アテナ」という韓国で非常に人気のあるドラマでして、昨年は「アイリス」というタイトルで放送されておりました、日本でも放映されていたかと思いますが、韓国で視聴率40%を超えるモンスター番組でして、その続編「アテナ」をぜひ鳥取県をロケ地にとということで誘致活動しまして、前回「アイリス」は秋田県で誘致されまして韓国人観光客が3倍以上に増えたということをお聞きしておりました、誘致に力を入れて、なんとか成功してこの9月に鳥取県内の主な観光地のロケが終わりまして、12月から韓国国内で放映されるという運びになっております。これが放映されますと鳥取県に観光で来られる韓国の方が増えるだろうと非常に期待しています。(資料 p. 14)

自転車、ツーリングといった旅行形態のツアーもあつたりします。子どもたちの交流、スポーツ交流がどんどん増えています。サッカー交流ですとか、境港の中高生の交流が非常に増えています。これは、本日おいでになっております境港市長が一生懸命に交流の機会をつくろうと取り組んでいただいています。10月17日に境港で鬼太郎カップ駅伝があつたのですが、ここにウラジオストクと東海のチームを呼んで賑やかに駅伝が行われました。こういうスポーツ交流も非常に増えてきています。(資料 p. 15-16)

ウォーキングでの交流でありますとか、左下の写真はビジネスですが、鳥取県の産業振興機構という財団法人ですが、江原道にあります江原テクノパークが商談を開始いたしました。学術研究で交流していきましょうという覚書も締結しました。こういう経済交流も発展してきています。(資料 p. 17)

相談体制といいますか、ビジネス支援体制ですが、鳥取県もウラジオストクというのが、今まで人的コネクションがそんなにあるわけではないので、民間会社のみなさんを支援するというので、今年の2月にウラジオストク市内に鳥取トレードセンターという、ビジネスサポートセンターを開設しました。ウラジオストクの中心市街地の非常に便利のよいところにあります。ビジネスのマッチングですとか、国・州・市といったロシアの関係機関とのコネクションづくりにがんばってもらっています。職員4名体制で運営しております。(資料 p. 18)

そうしたDBSクルーズも一朝一夕にできたわけではなく、鳥取県は北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットということで、毎年開催しております。韓国・江原道、ロシア沿海地方、中国・吉林省、モンゴル中央県と15年前からこういうサミットで交流を深めていこうと取り組んできています。その成果の一つがDBSクルーズの就航とご理解いただいてもいいかなと思っています。今年の5月は特に議題としてそれぞれの地域が航路を活用して経済・観光の交流を深めようという合意をしていただいたところです。あわせて、実務的にこの航路を支えていこうということで覚書を締結しました。その結果、鳥取県・江原道・沿海地方航路活性化協議会を3月に立ち上げたところです。これから、ロシア通関のことですとか、いろいろな問題がありますので、こうした一つ一つの壁を実務

レベルで検討・解決していこうという取り組みをスタートさせたところです。貿易・観光に関わる情報をこの関係する3地域で共有しようと情報提供サイトをそれぞれの国の言葉で翻訳した共通のものをつくっていこうということで、鳥取県が事務局となって、サイトの立ち上げにがんばっているところです。(資料 p. 19-20)

それからもう一つ本年度に入ってからですが、GTI、大図們江イニシアチブと呼ばれるものですが、ご案内の方も多いかと思いますが、豆満江地域の開発を国連が音頭をとりまして、やっっていこうというのですが、近年豆満江地域をもっとエリアを広げましてモンゴルからロシアまでの広い地域を視野に入れようということで、グレーターがついてGTIと呼ばれるようになった訳です。このGTIは豆満江周辺地域を中心に観光・貿易を国連の音頭で取り組んでいこうという取り組みです。GTIの取り組みの中に運輸部会がありまして、このたびできたのですが、この6月に運輸のほうを具体的なプログラムを策定して、具体的にそれぞれの関係国が取り組んでいこうという会合でございまして、これに鳥取県が実は私がオブザーバーとして参加させていただきまして、DBSクルーズの有為性をPRさせていただきました。その結果非常に関心を持って聞いていただきまして、プログラムの中のさらに具体的な指針であるサブプログラムの中にDBSクルーズ、環日本海貨客船航路という言葉が文書で明言化されたというのが一つの成果で帰ってきました。なお、北朝鮮も当初加入していましたが、脱退したということで、日本は当初から参加していないということで、オブザーバーとしてPRさせていただきました。その結果、非常においしい話をいただきまして、プログラムを専門的な視点から具体化していくための会議をしていこうというのが、GTIの開発手法ですが、その専門家セミナーを鳥取県で開催しませんかという話をいただきまして、話を持ち帰って、平井知事に報告したところ、大変いい話ではないかということで、この12月に鳥取県で開催する予定です。あわせて県民の皆様向けにシンポジウムを開催したいと考えております。(資料 p. 21-23)

ということで、ご用意したものは終わりましたが、DBSクルーズは一本の貨客船でまだまだ細いのですが、これは大事なインフラでございまして。道で言えば、国道でございまして。今は細くても一生懸命官民挙げて利用促進を図りまして、これが2車線になり、高速道路になりという展望で当初申し上げました北東アジアゲートウェイとしてこの境港が発展し、さらに島根県も含めてこの中海圏域がビジネス・観光という分野で発展すればいいなというふうに思っているところでございまして。

ちょっと早口で申し訳ありませんでした。考えて見ますと今日は10月の下旬でして、神無月ですが、当地出雲は神在月でございまして、日本全国の八百万の神が今出雲地方に集っていらっしゃるのです、きっと今日ここで、お話をさせていただいて、皆様方とご縁ができればこのDBSクルーズもきっといいことがあるのだろうなと思ってお話しさせていただきました。本当に拙い話でしたが、これからもDBSクルーズを含めて鳥取県に対しまして、国土交通省の審議官をはじめ、いろいろなご支援をお願いしますとともに、関係各県の皆様方もいろいろなところで、連携、ウィンウィンの関係を出来るような取り

組みを一緒になってがんばらせていただきたいと思っています。というところで、お話を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。